

リハビリに新聞を、活用の輪広がる

徳島大学病院脳外科の言語聴覚士北出修子さんが取り組んでいる、失語症や記憶障害などの高次脳機能障害におけるリハビリ指導に新聞の音読や書き写しを活用する独自の訓練が、注目を集め県内各地に広がっています。

患者の訓練意欲を刺激

新聞を活用した訓練

徳島大学病院の脳外科で、失語症や記憶障害などの患者にリハビリ指導をしている言語聴覚士の北出修子さんが、新聞を活用した独自の訓練を行い、注目されています。

北出さんは徳島大学病院で週に1回、外来患者のリハビリ指導に取り組んでいます。患者は1日8人程度で、小学生から70代までの幅広い年齢層に新聞を取り入れた訓練を続けています。

北出さんが、リハビリ指導に新聞を取り入れるようになったのは20年ほど前から。以前は3000字程度の文章を集めた冊子や、カードに文字や絵が書かれた既存の単語カードなどを教材として使用していました。当時、香川県内の病院に勤めていた北出さんは、もともと患者の幅広い

興味に対応できる教材はないかと考える中で、教材として新聞を活用すれば訓練に効果的なのではないかと気付き、取り入れるようになったそうです。

新しい情報や話題

新聞には、毎日新しい情報や話題が掲載されています。さまざまな話題に患者が興味を持つことができ、効果的なりハビリ訓練ができるそうです。初めは、内容が感動的であったり、患者が感情移入しやすいということ、読者投稿欄の記事を訓練に活用していましたが、更にさまざまな情報が盛り込まれた記事も取り入れるようになりました。

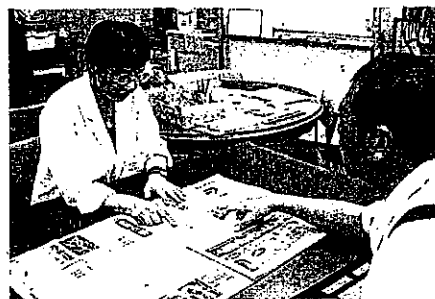
失語症

脳梗塞や脳出血、脳卒中、外傷などにより、脳の言葉を理解する部分が傷ついたことで起こる。

記憶障害

脳卒中、脳炎、外傷などにより、記憶の覚える・維持する・思い出すといった事がうまく行えなくなる。

現在の訓練では、北出さんの音読を患者が聞いたり、記事についての質問に答えたり、患者が興味を持った記事の音読をしたり、記事の書き写しなどを行っています。患者が興味のある記事や、感



動した記事を選ぶということ、訓練に集中することができ、記事の内容によつては患者が過去の経験を回想して記憶が呼び起こされ、積極的に話をしようとするようになるなどの効果が認められています。

失語症の症状などがあるという徳島市内の男性(38)は、新聞を活用した北出さんのリハビリ指導を受けてから、新聞を毎日のように読むようになり、社会への関心が高まるとリハビリにも意欲的に取り組めるようになったといいます。話題への関心が、訓練意欲を高める良い結果です。

リハビリ後も習慣的に音読を

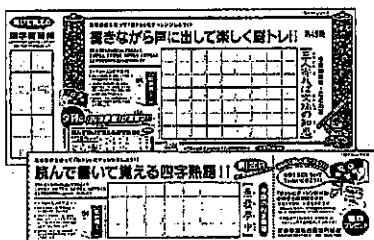
リハビリは、地道な努力を重ねることで効果が出ると、北出さんはいいます。患者の中には、リハビリが終わっても、新聞の音読を習慣的に継続しているという人も多いそうです。

新聞を活用した音読や書き写しは、専門家の指導が受けられなくても、家庭で簡単に行えます。ぜひ、自分が興味を持った記事を選んで、音読や書き写しを毎日の習慣として取り入れてみてください。

徳島新聞で脳トレにチャレンジ!!

徳島新聞の朝・夕刊には、国内外のニュースはもとより、読み聞かせや音読にお勧めのコラムや記事が、多数掲載されています。「脳トレシリーズ」として、ことわざや四字熟語、クイズも好評掲載中です。いつでも、どこでも手軽に活用できる脳トレツールとして、ご家族で楽しみながら活用ください。

徳島新聞販売店では、東北大学・川島隆太教授監修の新聞を活用した脳トレトレーニング方法を紹介した小冊子も配布しています。ご希望の方は、お近くの徳島新聞販売店または、徳島新聞販売店協同組合フリーダイヤル(0120)461940までお問い合わせください。



▲徳島新聞に掲載中の「脳トレシリーズ」
クイズ(朝刊 毎月第1火曜日)
故事・ことわざ(朝刊 毎月第3木曜日)
四字熟語(夕刊 毎週水曜日)



徳島大学病院 脳外科
言語聴覚士 北出 修子さん

- 学歴
徳島大学教育学部卒業
大阪教育大学特殊教育特別専攻科卒業
徳島大学医学部生理学第二講座専攻終了
- 職歴
香川県立中央病院言語療法室
香川県立中央病院言語療法室
センター言語療法室
徳島大学医学部脳神経外科言語療法室
高次脳機能促進リハビリ施設サングリハビ
リプラザ設立
NPO法人高次脳機能障害者支援センター
サングリハビ設立現在に至る
- 資格
言語聴覚士 英語学校教諭 医学博士



▶徳島新聞各販売店に無料配布中の小冊子
「脳トレにチャレンジ!!」